第４回　ふくまる夢たまごセミナー

日時　７月２０日（金）18：00～20：00
場所　市庁舎７階大会議室
内容　〇講話１：池田の歴史・文化、そして見所
　　講師　前川亮太（池田市教育委員会指導主事）
　　〇講話２：教育を「狭育」にしないために
　　―どこまで寛容でいられますか―
　　講師：鎌田富夫（セミナーアドバイザー）

　　〇班別協議

「第４回ふくまる夢たまごセミナー」は、本来なら２週間前に実施していたはずの「フィールドワーク」の報告会だったのですが、西日本一帯を襲った豪雨により「第３回セミナー（フィールドワーク）」をやむなく中止にしましたので、第４回セミナーも上記の通り変更せざるを得ませんでした。

また、この豪雨直後、例年にない早い梅雨明けとともに、今度は連日の熱波が日本列島を襲いました。この日（7 月 20 日）も大阪の最高気温は 37 度を上回り、最低気温も 28 度を下がることはありませんでした。

それでも、31 名もの塾生が汗だくになりながら参加してくれました。会場も早くから冷房を入れていたのですが、なかなか室温が下がらず、急遽、扇風機を４台持ち込んでの第４回ふくまる夢たまごセミナーの開会となりました。

まずは、小林課長（教育政策課）のあいさつの後、「池田の歴史・文化、そして見所」と題し、前川指導主事からの講話がありました。

「池田の町成立の要因」を歴史や地形から考えたり、小林一三氏の地域開発と商売をつなぐユニークな商法に触れたりしながら、池田市を見直すことができました。さらに、日常の事象や普段当たり前のようにある「もの」を、改めて「見なおす」ことによって、見えなかったものを見えるようにする社会科の授業づくり、

「ものの見方･考え方」を育てる話へと発展していきました。面白おかしく、ユーモアを交えた話に塾生のみなさんも引き込まれていったようでした。

続いての講話は、「教育を『狭育』にしないために　―どこまで寛容でいられますか―」というテーマで鎌田セミナーアドバイザーの話でした。

まず、「町たんけん」や「施設見学」で教師はいかに寛容でいられるのかを「楽しむ」という観点で指摘し、最後に、教師の寛容な心があってこその「子ども理解」であること、さらに、子どものテスト等の解答例を引用しながら、教育は、もっともっと寛容であっていいのではないかとの提起がありました。

フィールドワークとその報告会が中止となり、さらに、猛暑の中でのセミナーでしたが、塾生のみなさんは、しっかり集中して、話に聞き入っていました。

＜塾生の感想から＞

○　今日は、ものの見方や考え方について学びました。道端にある自販機ひとつとっても、スーパーや電柱であったとしても「なんで？」という気持ちを持つことで子どもの視野は大きく広がっていくことが分かりました。また、

その子どもの視野を広げていくのも狭くさせてしまうのも教師の言葉掛けや行動で変化していくこともわかりました。学習としての正解だけが本当の正解ではないということも学びました。子どもが新たに発見したこと、おもしろい解答をしてきた際に、教師がどれだけ子どもに寄り添った反応ができるかで、子どものその後の学習意欲にも大きくつながっていくのではないかと考えます。

○　今日学んだことは、大きく２点あります。１点目は、「子どもの発想や間違いに気付き、認める教師の寛容さ」です。ただバツをつけるのではなく、何か一言書くなどして、認めることで、その子のよさを伸ばしたり、私自身が子どもから学んだりできると感じました。２点目は、「教師の姿勢」です。ものの見方・考え方を子どもに働かせるような授業づくりや関わり方のためには、まず、私自身が毎日の事柄の中で気づき、たくさんの疑問を持って「何でだろう？」と考えられる教員をめざします。多面的な考え方や寛容さ、幅広さを持った教員になれるよう、経験や人との出会いや考え方を大切にします。ありがとうございました。

○　今日のセミナー全体を通して、「子どもの発想に柔軟に対応できる大人力と子ども力を合わせ持ったような教員」になりたいと思いました。子どもが危ない目にあったりせぬように見守ったり、新しい学びを与えたりする大人としての役割と子どもがどのように考えたのか理解したり、校外学習で教師自身も楽しんだり、子どものように目線を変えられることが必要だと考えたからです。池田についての知識がほとんどないので、子どもたちが自分の住む町について学べる環境をつくるためにも、私自身がもっと学びたいと思いました。

○　日々生活していく中で、たくさんの人と関わり、様々な見方、考え方に出会いますが、時として、それが自分と異なることもあり得る状況で、その意見をいかに自分のものにできるかは、自分を豊かにするひとつの手立てであるということを感じました。いろんな側面から物事を見つめられること、いろんな考えが持てることは、教師になって、多様な子どもと関わる上で非常に役に立つことであると思います。正解、不正解の二者択一ではなく、そこにある努力や過程を寛容な心で受け止められる、そんな“人”になろうと思います。子どもから学ぶことがあるというのは、今、実際に現場実習でも感

じており、やはり、座学では学べない、肌で触れてこそ分かるものも多くあると分かりました。センスを大切にできる人になります。

○　今日のセミナーを振り返って、無意識を意識化することの大切さを感じることができた。町を歩いていて「何でだろう」と思うこと、疑問を持つことから学ぶことができることを学んだ。また、それを教師として子どもたちに伝え、気づかせることができるように自分自身もそのような力や感覚を身に付けていきたいと感じることができた。私は、子どもたちに学校の楽しさを伝えられる教師になりたいと思っていたので、今回のセミナーでの、物事を多角的に捉えることで学びが楽しくなるということがとても勉強になりました。